

## 平成30年度 大野中地区まちづくり懇談会結果報告

- 1 日 時 平成30年8月3日(金)午後7時から午後8時33分まで
- 2 場 所 大野中公民館大会議室
- 3 市側出席者 下仲副市長、齋藤市民局長、田雑都市建設局長、佐藤南区長、小林教育局長  
石井企画部長、藤田資源循環部長、佐久間道路部長、樋口市民局次長、阿部南区副区長
- 4 出席委員等 20人
- 5 傍聴者 3人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	地域の人と人が助け合える体制づくりについて
概 要	<p>核家族化やインターネット等の情報化の進行などによって、人間関係が希薄化していると言われている。地域とのつながりを持っている人は少なく、その特徴として単身世帯やサラリーマン世帯の増加が挙げられる。なお、本地域においても、近所付き合いが少なくなり、コミュニケーションが減っていることを実感しており、自治会をはじめとした団体の役員の高齢化や担い手不足など、地域活動が成り立たなくなってしまうことが危惧されている。</p> <p>大野中まちづくり会議では、この機会に地域で取り組むべき課題として地域コミュニティの形成にとって交流や活動の場づくりと並んで重要なのが助け合える体制づくりと考え、「地域の人と人が助け合える体制づくり」をテーマにグループ討議を重ねてきた。</p>
課題事項1	地域活動の担い手不足に伴う地域に埋もれた人材の発掘について
概 要	<p>地域には、いろいろな得意分野を持った人材が埋もれており、それらの人材を発掘し、周りが支え、協力し合いながら自主的に活動していくことで、地域コミュニティの形成につながると考える。</p> <p>地域のつながりには、様々なきっかけがある。例えば、近所の付き合いからつながりが始まり、自治会などの組織への加入や参加に伴うつながり、ボランティア団体など地域が抱える課題に取り組む組織への参加に伴うつながりなどがある。しかし、そのきっかけがない人も地域には多く存在していると考え、地域に埋もれた人材を発掘することで、地域コミュニティづくりにつながるとともに、地域活動の担い手としても期待できると考えている。</p> <p>このような中、地域活動の担い手不足という課題について、市ではどのように把握を行い、また、どのように地域活動の担い手を支援していくのか、今後の支援に係る制度や展望について伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>地域活動の担い手不足については、役員が回ってくるタイミングで、負担が多いことや、高齢者の単身世帯が増える中では、従前のような自治会活動を継続できないことから退会されるという話も伺っている。把握という点で言えば、地域活動あるいは市民活動への参加の状況を伺うアンケート調査を行っており、その結果によると、活動に参加している人が3割程度で7割程度は参加していない状況である。「参加するつもりがそもそもない」と答えた方が、直近の調査で3割を超えている状況であり、活動に対して関心がない方が多くなっているのが大きな要因かと思っている。</p>

	<p>一方で、不参加者に対する設問では、「活動に関する情報・募集があれば参加したい」「時間・日程が合えば参加したい」とした意見も多く見られることから、予備軍の方はいると信じているいろいろな対策を打っている。市自治会連合会では、参加方法や活動内容などの情報発信の取組としてホームページをリニューアルする際に、若者が見てもおもしろく、情報がつかみやすくなるような工夫がされている。</p> <p>また、活動の負担感の軽減などを目的として、マイナンバーカードを活用した「地域活動ポイント制度」を本年7月より開始している。</p> <p>地域活動や市民活動を担う人材育成の観点から、ユニコムプラザにおいて、「さがみはら地域づくり大学」を平成27年度からスタートした。地域づくり自体にかかわっていただく方を増やす目的で、基礎的なコースから、応用コースなど、幅広い講義を設けて運用している。</p> <p>大学生でボランティア活動を一定数実施した人へ、「地域活動・市民活動ボランティア認定制度」の中で認定も行っている。大学の単位ではないが、就職活動などを含め有利な点になることや、地域活動、市民活動を実際に行う経験が、将来の担い手につながることを期待している。</p> <p>担い手不足という状況に危機感を持って考え、さまざまな事業を展開しようとしているところである。（市民局）</p>
<p>主な質疑等</p>	
<p>質問要旨 (提案者)</p>	<p>地域づくり大学の講義内容や認定制度について、もう少し詳しく教えてもらいたい。また、講義の中で自治会会員が減少している状況や自治会加入促進について周知をして欲しい。</p>
<p>回答</p>	<p>6月からカリキュラムが始まり、地方分権や相模原市の歴史を学ぶ講座などがあり、各コースで一定以上の講座を履修すれば、修了証を授与している。また、講義で自治会加入促進についても伝えている。（市民局）</p>
<p>意見等 (提案者)</p>	<p>古淵にはシンボリックな施設がないので、3世代が交流できるようなシンボリックな施設があれば良いと考える。</p> <p>マイナンバーカードの活用や制度について勉強したい。</p>

課題事項 2	活動団体間の地域課題の情報共有化及び交流の拠点整備について
概要	<p>大野中地区には3つの公民館があり、各種団体などは各公民館で活動している。このように、ふだんはそれぞれ活動している団体が、地域の思いや課題などの情報を共有し、同じ目的に向かい、それぞれに活動しながらもつながることで、地域の横の連携が図られると考える。しかし、大野中地区には交流の拠点となるようなシンボリックな施設もないことから、団体間の交流の機会や場の創出などを視野に入れ、まちづくり会議で検討している。このような中、より広域な交流の機会や多目的な地域コミュニティ形成の場として公共施設の跡地などの活用を含め考えていたところである。</p> <p>なお、大野中地区には、平成27年9月に閉鎖した東清掃事業所があるが、その跡地の利用について、平成26年3月に大野中地区まちづくり会議から市長及び教育長へ要望書を提出させていただいた。このようなことから、大野中地区の交流の場として東清掃事業所跡地の利用、活用に係る現状と今後の方針について、市の考え、また取組状況をお伺いする。</p> <p>また、それらに関連し、施設の解体に当たっては、解体に向けた土壌調査などを行う必要があると伺っているが、環境アセスメントの観点から、解体にはどのぐらいの時間を要するかもあわせて教えていただきたい。</p>
市の取組等の説明	<p>東清掃事業所の解体には、関係法令に基づき、事前に土壌調査及びアスベスト調査を行う必要があり、調査結果を踏まえ、工事期間中の安全対策など解体方法を定めてから工事を実施することになるため、調査着手から解体まで少なくとも5年程度の期間が必要である。（環境経済局）</p> <p>公共施設の老朽化が進む中、現在保有している全ての公共施設を維持していくことは困難な状況であり、真に必要な公共サービスを提供していくため、「公共施設の保全・利活用基本指針」に基づき、公共施設の総量削減等の取組を進めている。原則として、新規の施設整備は行わないこととしており、新たな施設としての整備は難しいが、既存の施設の建替えの際は、周辺の公共施設等も含め、多様な世代が交流する拠点施設として集約・複合化することについて、地域の皆様とともに検討していきたい。（企画財政局）</p>
主な質疑等	
質問要旨	東清掃事業所跡地のアスベスト調査、土壌調査の開始は予定されているのか。
回答	調査の開始時期は、現在のところ定まっていない。初めに地歴調査が必要であり、その後にアスベスト調査、土壌調査の順番で進めていきたい。地歴調査に早く着手したいと考えている。（環境経済局）

<p>質問要旨</p>	<p>コミュニティ不足に関して、小学校のPTAで活動をしている中では、親同士がコミュニティをとらざるを得ない状況である。また、日ごろから老人会や地域の方の協力で地域の見守りをさせていただいており、感謝を持ちながらいつも見ている。</p> <p>しかし、年々児童の数が減っており、少子化が進んでいくとコミュニティ不足が進んでいってしまうのではないかと懸念している。また、大野台地域は大きい企業があるが、そこに勤めている現役世代の方で相模原市に住まれている方は非常に少ないと思っている。</p> <p>このような中、市外の方が、相模原市に住みたいと思うような、相模原市を売り込める部分は少ないと感じているが、そのような点をどう考えているか伺いたい。また、他市と相模原市を比べ、子育て世帯への支援に関して見劣りはないのか、また勝っていることはあるのか伺いたい。</p>
<p>回答</p>	<p>子育てに関しては、非常に重要な政策だと考えている。自分の部局ではないので正確に申し上げられなくて申し訳ないが、例えば今年度であると、この秋からになるが、小児医療に関して助成している。通院あるいは入院の際の助成をさせていただいているが、入院の対象は小学生までであったが、今後は中学生まで拡大するような事業に取り組みたいと思っている。</p> <p>学校で勉強できなかった子をサポートするような家庭教師的な事業なども今年から新たに始めさせていただく。(企画財政局)</p>
<p>意見等</p>	<p>東清掃事業所の件に関しては、今後も必要に応じ、進捗状況の報告をしてほしい。</p>

テーマ 2	大野中地区の交通安全対策について
概要	<p>大野中地区の交通安全対策の視点から、市の取組状況や考えを伺いたい。</p> <p>本地域を貫いている国道16号の沿道には、大型の商業施設あるいは物流施設等が多くあり、地域内外からの買い物客や通過交通により渋滞が慢性化している状況である。渋滞の影響を受け、住宅地域内の通学路や身近な生活道路が抜け道となっており、また、全般的に道幅が狭く、交通量が多いにもかかわらず歩道が整備されていない箇所、歩道の形態があつたとしても歩行者や自転車の通行利用は危険で不便な箇所が多くあるという状況を踏まえた中で2点伺う。</p>
課題事項 1	通学路の安全対策及び生活道路の安全性の向上について
概要	<p>1点目が、通学路の安全対策及び生活道路の安全性の向上についてである。</p> <p>国道16号と並行して走っている市道淵野辺中和田線は、1日を通して交通量が大変多い道路である。古淵、新淵地域内にはガードレール等が敷設されているが、鶉野森地域については、歩道のラインは敷設されているものの非常に狭く、高齢者を含む歩行者及び自転車利用者の通行には大変危険を伴っており、いつ交通事故が起きてもおかしくない状況にある。なお、事実、事故が発生している状況である。また、鹿島台小学校、鶉野森中学校の児童・生徒は、歩道が狭く危険であるということで、この市道を通行していない。そのため、鶉野森の緑道を通学路としている。</p> <p>このようなことから、鶉野森自治会として改善要望書を市長宛てに出している。他にも大野中地区については、国道16号から延びている大沼道路も含め、通学路や生活道路の安全確保を図らねばならない箇所が多くある。そういった視点から、安全確保の対策など、市の取り組み状況について1点目としてお伺いしたい。</p>
市の取組等の説明	<p>教育委員会では通学路交通安全プログラムに基づき、PTAや地域からの通学路に対する改善要望を、随時受け付け、警察署や道路管理者等関係者と連携し、対策必要箇所への安全対策を講じている。</p> <p>児童の通学路で車両の通行が非常に多く、小学生が多く横断する場所等で、安全確保が困難な箇所には、学童通学安全指導員を配置している。</p> <p>また、自治会等が、防犯カメラ設置費補助事業を活用し、通学路にも設置していると認識している。</p> <p>登下校時の児童生徒等の安全確保は、新潟市の事件を踏まえ、文部科学省から「登下校防犯プラン」により、通学路等の安全点検や安全対策の強化が求められている。（教育局）</p> <p>通学路の安全確保については、児童の通学の安全を確保するため、学校、PTA、警察、道路管理者等により合同で実施している通学路安全点検の結果や交通状況等を踏まえ、路側帯のカラー舗装化、「スクールゾーン」等の路面標示や防護柵の設置など、地域の実情に応じた安全対策を実施している。</p> <p>生活道路の安全確保についても、自治会等の地域の皆様からの改善要望や交通事故の発生状況等を踏まえ、交差点のカラー舗装化、カーブミラーや自発光式交差点鏡の設置などの安全対策を実施している。（都市建設局）</p>

課題事項 2	大野中地区の道路の整備方針及び整備計画について
概要	<p>近年、自転車のニーズが高まっている一方で、自転車関連の事故件数の割合が高まっている。南警察署管内においても多発している状況で、歩道整備等の安全対策が必要ではないかと考えている。先年事例として、国道16号相模原駅周辺において自転車道の整備がされた結果として、事故件数の減少につながったということで一定の効果が得られたという話を聞いている。そこで、このようなことを踏まえて、大野中地区の道路整備等について、または方針、計画についての考えを伺いたい。</p> <p>あわせて、自転車事故の要因として利用者のマナーの問題等もあるかと思う。そういったマナーの問題を含め、安全対策など市の取組状況について伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>本市の道路整備は、広域的な交流を高める幹線道路ネットワークの形成や渋滞箇所及び交通安全上課題のある箇所の解消に向けた整備を進めており、「相模原市新道路整備計画」に基づき、事業の実施環境や有効性について評価を行い、今後5年以内に事業を実施する箇所を優先整備箇所、地域や関係機関と調整を図りながら事業化に向けた検討を行う箇所を整備検討箇所として位置付け、優先度の高い道路から整備を進めている。</p> <p>大野中地区においては、国道16号に平行する市道淵野辺中和田について、通過交通が多い中で歩道の未整備箇所があることから、交通安全上、課題がある路線と認識している。</p> <p>こうしたことから、市道淵野辺中和田では、これまでに幸延寺入口交差点で改良工事を実施し、現在は鵜野森旧道交差点を優先整備箇所に位置付け、歩道設置を含めた交差点改良に取り組んでいる。</p> <p>市道淵野辺中和田の古淵鵜野森公園前交差点付近及び県道52号の鵜野森旧道交差点から町田市境を整備検討箇所に位置付けていることから、鵜野森旧道交差点の改良後の交通状況を踏まえるとともに、地域の意見を伺いながら事業化に向けた検討を行う。(都市建設局)</p> <p>交通ルールやマナー向上に向けた取組については、「南区安全・安心まちづくり推進協議会」を設立し、本協議会の構成団体である交通安全協会や交通安全母の会、警察署などと連携した啓発キャンペーンを積極的に行っている。</p> <p>JR古淵駅前九都県市一斉自転車マナーアップキャンペーンや、白パイやパトカー等を展示し啓発を行うなど、交通事故の防止を呼びかけた。</p> <p>また、小学校において自転車シミュレーターの体験教室も実施している。</p> <p style="text-align: right;">(南区役所)</p>
主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	<p>幸延寺の交差点から谷口方面へ向かうと歩道が狭い箇所もあるが、道路の整備計画には入っていないため、要望書を以前自治会から提出した。大野中地区全体を含めて危険箇所等を把握していただき、できるだけ危険を回避できるようにしていただきたい。</p>

回答	<p>鵜野森自治会から平成30年3月13日に市長宛てに要望をいただいている。道路整備計画については、現在策定をしている新しい総合計画や都市計画マスタープランを踏まえ、見直しを行うので、その中で当該箇所については検討することになる。</p> <p>拡幅して歩道整備するとなると、地権者の皆様のご協力をいただきながらとなり相当時間がかかるため、ソフト政策も必要であると考えている。国道16号の渋滞については、国土交通省に対し、立体化などを要望している。国道16号がスムーズに流れれば、市道淵野辺中和田の交通量も落とせるかといったことも検討しながら事業を進めているのでご理解いただきたい。（都市建設局）</p>
----	--